

Title	北里柴三郎記念館の開館
Sub Title	Archival materials and Kitasato memorial museum
Author	大久保, 美穂子(Okubo, Mihoko)
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2017
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). Vol.34, (2017.) ,p.61- 71
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：慶應義塾大学医学部設置一〇〇年
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20170000-0061

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

北里柴三郎記念館の開館

大久保美穂子

はじめに

二〇一七年十月、学校法人北里研究所・北里柴三郎記念館が完成した。この新記念館が建つ北里大学白金キャンパスは、かつて結核専門病院「土筆ヶ岡養生園」があった地で、一八九三年、福沢諭吉らの援助で開設された施設である。その後、一九一四年には国立伝染病研究所を辞した北里柴三郎が養生園の一角に「北里研究所」を創設した。そんな由緒ある地は、現在、北里研究所・北里大学の本拠地（東京都港区白金五丁目九番一号）となっている。

北里柴三郎記念館は一階に展示室、北里柴三郎記念室事務室、北里柴三郎記念会事務局、二階に北里大学同窓会、北里大学PPAの事務局と北里関係者のサロン「北里白金サロン」がある。

北里と福沢の関係は森孝之氏の「北里柴三郎を支えた福沢諭吉」で詳しく述べているので省略する。

養生園は、北里の為に設立された病院で福沢は自身の所有地を提供した。この地域は古くから「土筆ヶ岡」と呼ばれていたことから福沢は「東京芝区広尾 土筆ヶ岡養生園」と名付けたのである。⁽¹⁾

常に養生園への支援を続け、運営に欠かせない「養生園会計規則案」を作成している。そして、北里が研究、診療などに専念できるように、庶務会計の担当者として慶應義塾出身の田端重晟を北海道から呼び寄せ事務長にすえた。

一九三一年六月十三日、北里の逝去により養生園の施設は総て北里家より北里研究所へ寄付され、その後北里研究所病院に統合され現在の北里大学北里研究所病院として発展した。

一 北里柴三郎記念室の歴史

一九六四年、社団法人北里研究所創立五十周年の記念事業として学校法人北里学園・北里大学が創設された。その一環として創設者北里柴三郎を顕彰するため「記念館」の設置が計画され、資料の収集活動を開始したのである。北里家をはじめ、関係者などから貴重な遺品等の寄贈、提供を受け、戦禍による難を免れた北里研究所本館（他の建物等は殆ど焼失）に残されていた遺品等を含めて一二七件を収集することができた。諸事情により記念館建設までは至らず、当時、新設した北里研究所研究棟の一室を「遺品室」としてそのうちの六十点を陳列した。⁽²⁾

一九八〇年、北里研究所本館を博物館明治村（愛知県犬山市）へ移築した際に遺品室を改称し、跡地に建築

された新北里本館四階に「記念室」を設けた。これを機に、添川正夫（一九〇八―一九九二）北里研究所名誉部長を中心として資料調査、目録作成が始まり、一九九二年、中瀬安清（一九二七―）北里研究所名誉部長が引き継いだ。

一九九七年四月、同館一階に移転、「北里柴三郎記念室」と改称し一般公開を開始した。広報活動の一環として社団法人北里研究所広報誌『The Kiasao』⁽³⁾に記念室の収蔵資料の解説を行った。

二〇一七年十月、収集を開始した当初の目的であった「北里柴三郎記念館構想」が半世紀を経て叶い、「北里柴三郎記念館・展示室」が開館した。資料整理を始めた頃から携わった者として感慨深いものがある。

1、資料の収集

北里柴三郎記念室（以下、記念室とする）の資料収集は一九六四年の一二七件から始まり、現在では約一万件にのぼる。

本格的な収集は一九九七年、「北里柴三郎記念室」が開設された時からとなり、当時の社団法人北里研究所内の倉庫などに保管されていた貴重な図書や事務記録等の歴史資料を一括で管理することになった。

展示活動と共に、博物館明治村に移築した北里研究所本館・医学館内での展示へ協力、北里の生誕地熊本県阿蘇郡小国町の学びやの里整備計画での北里が郷里の青少年育成のため創設した図書館「北里文庫」を改修して展示会を開催した。北里に関する遺品などを陳列し小国町に寄贈した。

収集の方針は特に定めてはいないが、寄贈申し入れや関係資料等の照会があった際は、出来る限りの対応を心掛けている。また、資料調査はなるべく現地に赴き、関係者に面会することによって新しい発見や資料が見

つかることがある。

2、近年の新収資料

- (1) 北里柴三郎の動画（公益財団法人三井文庫提供）
一九二五年、国際学会「第六回極東熱帯医学会」（北里柴三郎会長、長与又郎副会長、会場 東京大学）が開催された際にレセプションが挙行され、会場となった麻布今井町の三井家本邸での記念映像に北里の歩く姿が残されていた。
- (2) 私立伝染病研究所時代からの門下生「高木友枝」資料（高木孫の板寺家寄贈）
- (3) 江戸時代の木製顕微鏡（今泉準氏寄贈）
日本最古の顕微鏡の一つと言われているもので一九三二年の東京科学博物館（現、国立科学博物館）の開館一周年の「江戸時代の科学展」に出品された。

二 北里柴三郎記念館 展示室

二〇一七年十月に開館した展示室では北里柴三郎、門下生等の学術研究、公的活動に関連した歴史資料や愛用品、恩師・恩人、知友の紹介、現代の継承者たちコーナーでは二〇一五年のノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智北里大学特別荣誉教授や本法人設置の学術賞受賞者を紹介している。また、新たに資料閲覧・検索コーナーを設けた。

展示構成

ガイダンス展示（北里愛用の顕微鏡、北里研究所所長室の机、旧実験器具）

1. 北里柴三郎のあゆみ
2. 画期的な研究成果
3. 世界が認めた業績・功績
4. 北里柴三郎の人間像
5. 継承される北里の学統 理論と実践（大村智先生紹介）
6. 微生物のすがた
7. 現代の継承者たち

特別展示

北里に師事した若き研究者たち（門下生コーナー）

北里が幼少期に磨いた橋本家縁側の板

映像コーナー

検索・閲覧コーナー

現在、展示している資料は八十六点、パネル五十六枚である。

三 主な収蔵資料

1、北里柴三郎関連

- (1) 研究業績
破傷風菌の純粋培養成功、抗体の発見と血清療法確立、ペスト菌発見他自筆論文、原稿、旧実験器具等
- (2) 公的活動
伝染病研究所創設、北里研究所創設、結核専門病院「土筆ヶ岡養生園」開設、日本医師会設立、日本医学会設立、慶應義塾大学医学部設立等
- (3) 遺品
内外の勲章、愛用品等
- (4) 文書、書簡
原稿、内外からの書簡等約一二〇〇件
- (5) 写真関係 約一〇〇〇点
 - ①ベルリン大学衛生研究所から贈られたドイツ留学記念アルバム
 - ②北里と同時期頃、ドイツへ留学した医学生たちの肖像アルバム

- ③ 伝染病研究所同窓会アルバム
 - ④ ガラス乾板約一五〇〇枚
 - ⑤ 門下生などの人物、集合写真など
 - ⑥ 建物、研究室等
- (6) 蔵書
- 北里のドイツ留学時代からの蔵書、門下生の蔵書等約三〇〇〇冊
- (7) 恩師、知友関係資料
- R・コッホ、福沢諭吉、P・エルリッヒ、E・A・ペーリング、長与専斎、長谷川泰、後藤新平、高峰讓吉等
- (8) 主な福沢諭吉、慶應関係
- ① 「北里部長式辞御演述内容案」一九二〇年
慶應義塾大学医学部ならびに病院開院式の演説内容案。
 - ② 「感謝状 北里柴三郎殿」一九二八年
鎌田栄吉慶應義塾評議員会長、林毅陸塾長より北里柴三郎宛感謝状。
 - ③ 福沢諭吉「養生園会計規則案」
 - ④ 福沢諭吉書簡
- 北里柴三郎宛（一八九三年、一八九四年、一八九五年）、
伝染病研究所宛（一八九五年）、田端重晟宛（一八九六年）

⑤写真、書幅、古書

⑥慶應義塾大学部医学科附属看護養成所 第一回生徒写真帳

2、門下生関連

(1) 高木友枝資料

二〇一三年から二〇一六年にかけて高木の孫・板寺家より高木資料二〇〇件強を受贈。高木は一八九三年、私立伝染病研究所の助手となり、一九〇二年、後藤新平からの要請で台湾へ赴任するまで北里の右腕として活躍した。台湾では台湾衛生学の父と呼ばれ、台湾の衛生行政や台湾医学校長などを歴任、台湾電力初代社長も務め活躍した。台湾時代の資料、北里の高木への信頼が厚かったことを知ることができる。資料や親交の深かった後藤新平からの書簡も五十通余りある。

(2) 志賀潔資料

一九九六年、志賀家が所蔵していた志賀資料二三〇件を受贈。志賀は晩年、郷里宮城県に疎開し次男亮氏家族と住み、亮氏よりの寄贈をきっかけに関連各位から多くの寄贈があった。志賀の実験ノート、自筆原稿、著書、胸像、文化勲章、揮毫、写真等。

(3) 宮島幹之助資料

宮島の資料は殆ど北里研究所勤務時代の所有物で、一九四四年、交通事故により突然他界したため北里研究所に遺されていたものである。宮島は寄生虫研究が専門であったが、アメリカ、ドイツで開催された万国博覧会の展覧担当や国際連盟の阿片諮問委員会委員、マレー半島でのマラリア調査、南米衛生調査等

国際的に活躍し著述も多く、原稿など多種の資料が遺っている。

(4) 北島多一、秦佐八郎、野口英世、小林六造等の資料

3、その他

(1) 橋本家資料⁽⁴⁾ 約六〇〇件

二〇〇一年、北里が幼少時代預けられた伯母(父・惟信の姉)の嫁ぎ先漢学者橋本龍雲家(熊本県阿蘇郡南小国町)より受贈。古医書を含む文書類、寺子屋での教科書等で中国医書の和刻本、江戸時代の刊本など。

(2) 江戸時代の木製顕微鏡⁽⁵⁾

二〇一六年、新潟の今泉家から受贈。

収蔵資料は北里柴三郎関連を中心に門下生や関係者、北里研究所、医学関係の歴史資料等が主で未整理資料がまだ多数ある。目録作成を優先していることもあり、内容の精査が三〇%しかできていない。

四 資料の整理及び管理について

展示への活用及び研究調査に対応しやすい資料のデータベース化を推進中。現在、写真、一紙物、古文書等の一部をデジタル化し、現物の資料閲覧の機会を極力回避し保全に努めている。

(1) 資料の整理

二〇一〇年、資料調査に携わった各人それぞれのデータを統合し、「北里柴三郎記念室総合資料目録」を作成した。各人の整理の仕方の違いなどを統一整理中である。

今後の整理の課題の一つとして、内容精査の推進がある。

(2) 資料の公開

個人情報に配慮し、著作権並びに資料の劣化などに関して問題が解消されている資料についてはなるべく公開の方針をとっている。

(3) 資料の管理

これまで記念室独自の収蔵庫が無く分散して保管していたが、保存環境が整った新記念館の収蔵庫に集約することが出来、管理がしやすくなるであろう。

おわりに

北里柴三郎記念館・展示室は以前の二倍の広さとなり、更なる北里柴三郎関係の顕彰と学校法人北里研究所・北里大学の広報機能を担うとともに情報交換の拠点としていきたい。

今後、ホームページの充実や企画展等の開催・協力を通じ、人的交流を深め新たな資料の発掘に努めたい。

最後に明治・大正時代の医学・医療・衛生行政で中心的役割を果たした北里柴三郎の功績は日本の近代医学の発展に大きな貢献を果たしたと確信している。

注

- (1) 一七七— 北里柴三郎、『福沢諭吉書簡集』第七卷、慶應義塾、二〇〇二年三月二日、二四七—二四八頁。
- (2) 北里柴三郎記念館、『北里研究所五十年誌』北里研究所、昭和四十一年九月二十日、七八九—七九二頁。
- (3) 北里柴三郎資料館、『The Kitasato』北里研究所、No. 1 (一九九四年) — No. 五七 (二〇〇八年)。
- (4) 小曾戸洋「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」、平成十四年度～平成十五年度科学研究費補助金 特定領域研究 (2) 「江戸のモノづくり」研究成果報告書。
- (5) 長岡で使用された日本最古の顕微鏡、『長岡市医師会史』社団法人長岡医師会、平成二年五月、二六—二七頁。